

あとがき

世界平和アピール七人委員会の2014年講演会『重大な岐路に立つ日本』（2014年11月4日、東京にて開催）の3つの講演のテーマは、打ち合わせたわけではなく、それぞれの講演者が今一番話したいことを取り上げたのですが、大変良くかみ合っていました。

践に裏付けられた音楽の持つ力の紹介がありました。パネル討論の中で、2つの大学の図書館に掲げられている言葉、「ペンは剣よりも強し」、「真理はあなたたちを自由にする」の紹介もありました。言葉は本来豊かな内容を持ち、力強いものです。講演では、言葉の劣化の危機的状況が具体的に解説されて、どう向き合い、どう克服するかが大切だという訴えがありました。また、外交努力をわきに追いやった武力によって国民の安心と安全を守ることとはできないのに、日本では急速な軍事増強が進んでいます。それに伴って大学研究機関における軍学共同の動きが着々と既成事実化されている事実が明らかにされました。

講演を受けてのパネル討論も限られた時間にもかかわらず充実していました。アンケートに書かれた感想も、大変前向きでした。このパネル討論の内容が本書の形にまとめられ、広く読まれることが可能になりました。

振り返ってみますと、これまでの11回の講演会の中で記録をまとめることができたのは今回が初めてです。アピールについても七人委員会はこれまで内容を広く伝えるための努力が不足していたと反省しています。確かにホームページ（*1）を持ってはいますが、掲載されている情報には欠落している部分があり、改善の余地が多くあります。発足から60年経過しましたが、書籍として活動をまとめたのは46年間の略史と東京電力福島第一原発事故後の2011年7月におこなった記者会見の記録だけにすぎません（*2）。今後、空白部分を埋めていきたいと思っていますが、そのための資料もかねて、この機会に、私（小沼）が関係するにいたった経緯について私記を書かせていただくことにします。

*1 <http://worldpeace7.jp>

*2 『世界平和アピール七人委員会四十五年の歩み』（2000年、非売品）

『世界に平和アピールを発し続けて一七人委員会46年の歩み』（平凡社、2002年）

『原発に未来はない：原発のない世界を考え、I A E Aの役割強化を訴える 記者会見の記録 2011年7月11日』（2011年）

私は、1955年以来の初代委員の湯川秀樹と1969年に委員に就任した朝永振一郎のお二人の先生と研究分野が重なっていましたし、1950年代からお亡くなりになるまで、科学と社会の関係についての活動でもかなりお近くにいました。お二人が熱心だったパグウォッシュ会議には、1957年の第1回会議の後で発足した日本グループに、創立時からかかわってきました。

七人委員会の活動は、パグウォッシュ会議や、その日本版であった科学者京都会議の内容と重なることが多々ありました。それなのに、お二人から七人委員会についてお聞きした記憶が全くありません。時々新聞紙上に報じられる活動を通して、ある程度知っていたに過ぎません。私だけでなく周囲の物理学者たちも同様だったと思います。

その私が、七人委員会に深くかかわるようになったのは2003年の夏以来でした。ある

日、伏見康治先生からお電話をいただき、相談したいことがあると言われました。お会いすると、「欠員を補充できないでいるうちに委員が次々に亡くなり、平山郁夫さんと僕の2人だけになってしまった、七人委員会を解散しようかと思うがどうだろうか」と訊かれました。私は、「先生は94歳まで働かれたのだから、おやめになるのもご自由だと思いますが、所期の目的はまだ達成していませんね」と答えました。そうしたら「それはそうだ。メンバーをそろえて再起しようと思うので、手伝え」というご命令でした。

伏見先生はこの時までには武者小路公秀さんにはご相談されていきました。それから、追加委員の人選を始め、翌年の初めから私は事務局長として、新しくそろった7人の委員を支えての活動を始めました。2006年になって、小柴昌俊さんが、ノーベル物理学賞受賞後に設立した財団の仕事が多忙で、委員と両立できないといわれて辞職された時に、後任委員として参加することになり、今日までこの形で続けてきました。

前記『46年の歩み』の最後には、「七人委員会は世界の隅々まで戦火が消え、核兵器を含む一切の軍備が廃絶され、人類の恒久平和が実現される日まで存続し、平和に対して訴えつづけてゆかねばならないと思うのである」と書かれています。

私たちは、初心を忘れず、この志を引き継いで今後もアピールを発表し、講演会も実施していきたいと考えています。

本書は、七人委員会事務局の丸山重威と私が編集にあたりました。

読者の皆様が今後も七人委員会にご注目くださり、ご支援していただければ幸いです。

あけび書房の久保則之社長には終始お世話になりました。記して謝意を表します。

2015年2月

本書編集責任者 小沼 通二

(世界平和アピール七人委員会委員・事務局長)